

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の基盤と専門職 I Social Work Basics and Specialization I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山田 昇	本館3F	授業時に説明します。		授業中に指示します
授業の概要				
複雑化していく福祉ニーズに対応するため、相談援助に関連する基本的な理念、概念、定義、意義について歴史的な背景を含めて学ぶ。さらに相談援助の専門職として求められる姿勢や態度等を考える。				
授業の目標				
①社会福祉士の役割と意義について理解し、説明することができるようにする。 ②ソーシャルワークの発展過程について理解し、説明することができるようにする。 ③相談援助の理念について理解し、説明することができるようにする。 ④相談援助専門職の倫理とはどのようなものか、考えを深めることができるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。				
学習の成果 (学習成果)				
①相談援助に必要な「臨床」的態度や姿勢とはどのようなものかを明確にすることができ、説明することができる。 ②利用者を主体とした相談援助の基盤を身につけることができる。 ④相談援助の専門職として倫理と価値の相関を明らかにすることができ、説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・社会福祉士の役割と意義			
第2回目	ソーシャルワークの歴史 (1) 歴史を学ぶ意義、ソーシャルワークの草創期			
第3回目	ソーシャルワークの歴史 (2) アメリカにおけるソーシャルワークのはじまり			
第4回目	ソーシャルワークの歴史 (3) アメリカにおけるソーシャルワークの展開			
第5回目	ソーシャルワークの歴史 (4) 日本におけるソーシャルワークのはじまり			
第6回目	相談援助と社会資源			

第7回目	相談援助の構造と機能
第8回目	相談援助と臨床（1） 方法としての臨床
第9回目	相談援助と臨床（2） 臨床的態度と現実的公開性
第10回目	相談援助と臨床（3） 共同主観的人間理解
第11回目	社会福祉の理念と相談援助の理念
第12回目	利用者主体の相談援助 レポート「利用者主体の支援とは」提出は第13回の授業日
第13回目	相談援助の専門職における倫理
第14回目	社会福祉と相談援助の関係性、臨床的な相談援助（1）
第15回目	社会福祉と相談援助の関係性、臨床的な相談援助（2）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト	10%	第8回目の授業において小テストを行う。ほぼすべての授業にリアクションペーパーを行う。このことにより学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えを明確にすることが出来る。
試験	60%	論述、選択記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

『相談援助の基盤と専門職（第2版）』弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布します。

履修上の留意点・ルール

社会福祉士国家試験受験資格取得の為に必修科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。